

アメリカばんざい —crazy as usual

2008(平成20)年7月10日鑑賞<松竹試写室>

★★★



監督=藤本幸久/主な登場人物=パブロ・パレデス/ダレル・アンダーソン/デニス・カイン/ハーバート・リード/カルメロ (森の映画社、太秦配給/2008年日本映画/120分)

……新兵を教育するブートキャンプ。その中に日本人としてはじめて入った藤本幸久監督のカメラが、赤裸々にその実態をレポート！ さらに、イラク戦争が生み出した負の遺産と「貧困徴兵制」の実態をくっきりと！ 皮肉なタイトルがピッタリのドキュメンタリーを、ノー天気な平和を享受している私たち日本人は、重く受けとめなければ……。

◆ 『アメリカばんざい』というタイトルは決してアメリカを賞賛するものではなく、逆に「アメリカばんざい」の声とともに若者を世界の戦場に送り出しているアメリカの問題点をえぐり出す皮肉をいっぱい込めたもの。試写室で直接聞いた藤本幸久監督の言葉によれば、2005年に『Marines Go Home—辺野古・梅香里・矢白別』を完成させたものの、基地の中に入らなければ、アメリカ軍兵士の実態を捉えることはできないことを痛感したとのこと。そこで『アメリカばんざい』では、パブロ・パレデス(24歳)とダレル・アンダーソン(24歳)を中心として、多くの兵士のナマの声をインタビューするとともに、日本人としてはじめて初年兵を教育するブートキャンプの中にカメラを入れて、新兵教育の取材を敢行。さて、その実態は……？

◆ この映画の主要な登場人物の1人は、18歳で入隊し、横須賀基地に駐留中に妻の詩織と出会い、2004年12月、イラク派遣命令を拒否し、禁固3カ月、重労働2カ月の刑を受けた元海軍兵士のパブロ・パレデス。

もう1人は、20歳で入隊し、2004年にイラクに派遣。2005年1月、2度目のイラク派遣命令を拒否し、カナダへ逃亡した元陸軍兵士のダレル・アンダーソン。

その他、①「俺は劣化ウランを見てしまった」という湾岸戦争帰還兵のデニス・カイン、②イラクのサマワに派遣され、劣化ウランで被爆した元NY州兵のハーバー

第3章

傑作・佳作がいっぱい！

ト・リード、③特殊兵器部門に勤務していた元ケリー空軍基地労働者のカルメロなど、イラク戦争に従事する中で悲惨な体験をしてきた人たちばかりだ。

しかし、これはほんの一部。アメリカは徴兵制ではなく志願制だが、その実態は格差社会がもたらす「貧困徴兵制」だということがよくわかる。

◆ 映画が始まると同時に、ベッツィー・ローズが歌うテーマソング『For the Mothers (母たちのために)』が歌詞の表示とともに流れてくる。これは、1960年代のベトナム戦争当時、みんなが歌っていたジョン・バエズの『雨を汚したのは誰』などと同じようなギター伴奏による静かな歌だが、そのアピール力はすごい。

ラストの字幕とともに再度流れてくるこの歌を聴きながら、アメリカ軍のこんな実態について十分関心を持ちたいものだ。

◆ スペシャル・サンクスの字幕の中に「今重一」という懐かしい名前を発見。彼は第26期司法修習生の同期で、修習時代一緒にさまざまな活動をしていた仲間の1人。今彼は北海道の釧路の法律事務所ですさまざまな分野の中核として活動しているが、藤本幸久監督の話によれば、この映画の製作についていろいろと協力してくれたとのことだ。離れていても、会ってなくても、私たちの仲間がいろいろな分野で活動していることを確認できて、少し幸せな気分……。 2008(平成20)年7月11日記



©森の映画社

第3章

傑作・佳作がいっぱい！